

令和3年度

学校自己評価報告書

令和4年2月

一般社団法人 山形県歯科医師会立

山形歯科専門学校

I 学校運営基本方針

山形県歯科医師会立歯科衛生士養成校として、「歯科衛生士養成所指定規則」並びに本校「学則」に則り、地域歯科医療を担う、心豊かな人間性と知識とに裏付けられた専門職の育成に努めます。また、長期的視野から、歯科衛生士の社会的認知度の向上を図りつつ、教育活動のさらなる充実をめざして、適切に学校評価を実施することで学校運営の改善を図ってまいります。

II 重点目標

- (1) 充実した学習活動の展開
- (2) 学校の将来構想に係る検討の推進
- (3) 就職・国家試験対策等進路指導の充実
- (4) 学校生活の充実と心身の健康管理
- (5) 学校環境の整備と安全教育の推進
- (6) 関係諸団体・地域社会との連携の推進
- (7) 健全な財務会計の処理
- (8) 学校情報の適切な提供と学校運営の公開

III 令和3年度 学校自己評価について

1 基本的な考え方

本校では、平成28年度から学校評価事業を開始いたしました。初年度は自己評価の基本姿勢として、本校の学校運営全般にわたり、学生・保護者・講師・臨床実習施設長・山形県歯科医師会理事等の関係する当事者がとらえる本校の状況について、意識調査を実施し分析することを基礎におきました。意識調査は、上記II重点目標を評価項目としてとらえ、それぞれに関連する質問を作成して実施しました。そして、それらの結果を総合的に分析し、各目標の達成度を学校自己評価の指標といたしました。

そして平成29年度からは、第二段階として、よりよい自己評価をめざして、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行いました。また、意識調査は継続的に実施し、過年度比較等を含めて当該年度の状況分析をするなど、可能な限り精度の向上に努めております。

今後ともこの学校自己評価の結果を基礎におき、さらなる教育の質向上を図ってまいります。

2 対象期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

3 実施方法

(1) 学校内に設置している「校内評価委員会」の構成員と、同会事務局である本校教職員全員の計13名により評価を行います。

なお、「校内評価委員会」の構成は以下の通りです。

◎ 委員長 校長、 ○ 副委員長 副校長
委員 歯科衛生士科長、同副科長(2名)、事務長、教務主任 (計7名)

(2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。

(3) 評価は、年度一回2月に実施します。

(4) 評価結果の公開は、本報告書、必要に応じてアンケート調査結果等諸資料を学校HPに掲載することにより行います。

4 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施します。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

5 評価項目に対する評価

評価は4～1の得点制とし、基準は以下の通りです。

<適切-4点、ほぼ適切-3点、やや不適切-2点、不適切-1点>

次頁以降に、各小項目毎の13名の評価平均値を記載し、総合得点とします。

なお、点数の文字色は、
青 (3.8～4.0)・・・「良い」
黒 (3.5～3.7)・・・「まあまあ良い」
ピンク (3.0～3.4)・・・「要注意」
赤 (2.9以下)・・・「改善必要」 を示します。

Ⅳ 自己評価に向けた調査

〔評価項目1〕教育理念・目標

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	3.9	3.9
B 学校における職業教育の特色は何か。	3.9	3.9
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.8	3.8
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3.2	3.1
E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3.7	3.5

(2) 今年度の主な取組並びに成果等

- ① 「職業実践専門課程」（文部科学大臣認定）3年目であったが、コロナ禍における厳しい制約の中で試行錯誤の取り組みが続いた。校外での臨地・臨床実習については、各協力施設（歯科医療機関・学校・福祉施設等）との緊密な連携のもとでそれぞれ充実した実習を行うことができた。（A・B・C・E）
- ② 教育課程編成委員会を年2回開催し、本校教育の理念や目標、具体的方策等をより明確にするとともに、コロナ禍における学習活動の継続や実施方法等について検討・協議した。また、それらを本校教育運営委員会等に報告しさらに検討を加えることができた。（A・B・C・E）
- ③ 学校の理念や特色、将来構想については、学生・保護者ともに理解度を示す調査ポイントが毎年僅かずつ上がっており良い傾向を示しているが、今後さらに改善の余地があると思われる。（D）
- ④ 学校HP（スマートフォン対応）の適時更新とともに、県歯科医師会主導「やまがた歯科衛生士お役立ち情報」コーナーとのリンクにより各種学校情報をHP上又はSNS上に随時公開することができ、広報の実が上がってきている。（D）

- ⑤ 緊急連絡システムへの保護者の参入をお願いし、適切な情報共有や緊急連絡に役立てることができた。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 歯科衛生に係る時代の要請を確実に捉え、学修の目標や具体的方策について、常に検討し、改善・向上を図っていく。(C・E)
- ② コロナ禍における校外実習や学校間交流教育の在り方を改めて検討し、実施可能な活動を精選することで連携継続を図る。(A・B・C・E)
- ③ 学校運営における適切な情報共有や緊急連絡等の方策について、緊急連絡システムの活用や学校HPの使用方法をさらに研究し、また適宜訓練等を行う。(D)
- ④ 保護者への理解を深めるために、緊急連絡システムの有効活用や学校要覧を各家庭に配付するなど学校の理念や特色、運営体制や修学支援等について理解の深化を図るとともに、職員との懇談等の場を適宜設定してさらに協力体制を強固なものにしていく。(D)

[評価項目2] 学校運営

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3. 8	3. 9
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3. 8	3. 9
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3. 7	3. 8
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3. 0	3. 2
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3. 2	3. 3

F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3. 7	3. 5
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3. 9	3. 9
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2. 9	3. 1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 教育運営委員会を中心に、学校運営の方法や施設設備の整備、職員の業務改善等に向けた総括的な検討を行った。(A・B・C)
- ② コロナ禍中の学校運営については、山形県内の状況を踏まえ本校BCPを更新しつつ協力施設等と情報共有し、県歯科医師会との連携のもとで時宜に応じて行うことができた。(C・F)
- ③ オンライン授業やWeb会議に係る準備や運営がスムーズに行うことができ、そのことにより感染防御の実を上げることができている。(F・H)
- ④ 教育課程編成委員会で検討したことが学校運営全般の改善に反映され、内実の伴った会議運営ができている。(A・B・C)
- ⑤ 学校図書室運営検討委員会の検討を踏まえ、学習環境改善や図書の整理・整備、図書室の利用促進が図られた。近年、学習センターとして機能が充実し、「テーマ研究」や国家試験対策の学習に利用する学生が増加している。(A・B・C)
- ⑥ スマホ対応の学校HPの活用、また専用ブログやインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(G)

(3) 次年度への課題

- ① 組織運営の意志決定機能は充分備えられているが、感染症対策等の危機管理等繁忙を極め、状況に応じた対策を模索しながら試行するという形となった。基本となる校内会議を定期開催するなど改善が必要である。(A・B・C・E)
- ② データ集計IT化をさらに推進し、できる限り効率化と教職員の業務軽減を図るとともに、統計処理等のマニュアル化を進め、業務の平準化を図っていく。(H)

- ③ 就業規則の勤務時間の割り振りが学校の教育活動等と不整合の部分があり、様々な検討と調整が必要である。(C・D)

[評価項目 3] 教育活動

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3. 9	3. 9
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3. 8	3. 7
C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3. 9	3. 7
D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3. 7	3. 8
E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3. 5	3. 5
F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3. 7	3. 6
G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3. 9	4. 0
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3. 7	3. 9
I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3. 9	3. 9
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系	3. 9	3. 8

的な位置づけはあるか。		
K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3. 3	3. 1
L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3. 1	3. 2
M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3. 1	3. 3
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3. 0	3. 3

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 臨床実習に係り、臨床実習指導者会議や指導歯科衛生士会議をWeb開催とすることで、数多くの出席者を得て、教育内容や指導方法を共有することができた。
(D・E・F・H)
- ② 臨地実習について、今年度もコロナ禍の影響で限られた学校・施設での実施となったが、実施した実習全てにおいて大変内容の充実したものとなり、成就感や達成感に繋がったことは感謝したい。(B・D・E・F)
- ③ 米国の大学教授の講演について、現地と東京、本校を結ぶオンラインで開催することができ、大変有意義な時間となった。(C・D・E・F)
- ④ 外部講師による特別授業を複数回設定し、各専門分野の先端的な知識や技術等を学習し演習することにより、学生の意欲向上に繋げることができた。
(C・D・E・F)
- ⑤ 第3学年「テーマ研究」について、昨年度に引き続き今年度も文献検索を基盤とした研究となったが、発表内容のレベルが向上してしっかりした発表となった。また、発表会は公共施設を借用して開催したが、充実したものとなった。(D・H)
- ⑥ 「テーマ研究」担当講師のWeb打合会を4回実施し、講師間の連携強化・情報共有を図ることができ、教務担当者との連携もしっかりとした形で行われ、円滑な運営をすることができた。(K)

- ⑦ 授業評価について、学生の「授業アンケート」と指導者の「授業状況総括表」という総括的な実施に加えて中間期にアンケート調査を実施し、より実効が上がるよう努めた。また、その集約結果については関係諸会議に数値データの報告を行った。(G・L)

(3) 次年度への課題

- ① コロナ禍により、実習等で獲得すべき知識や技術が不足気味であり、その補完として、各種オンライン講義や実技指導に係る動画等をデータベース化し、学修段階に応じて学習機会を作っていく。(B・D・J)
- ② 臨地実習施設として行政(含保健所)、老健施設や地域医療包括ケアセンター等との連携を検討し、歯科衛生士の職業的特性を幅広く学ぶ体制を構築していく。
また、臨床実習協力施設の再募集を実施し、臨床実習の内容や方法について全体的な見直しを行う。(A・B・C・E・F)
- ③ 当该校と綿密な連携をとり、コロナ禍中でも実施可能な学校間交流の事業内容を検討し、実施する。(A・B・C・E・F)
- ④ 授業評価の精度と効果向上に図る中間期総括という機会を捉え、当該授業の改善に資することとともに、一層の学修意欲向上をめざす工夫をしていく。(G・L)
- ⑤ 早急に教務職員1名採用を実現する。中長期的な見通しを立てながら職員構成を考え、人材確保を行う必要がある。また、業務の効率化や平準化等により教職員の負担感の軽減を図るなど、働き方全般の改善や見直しを検討する。(K・L)
- ⑥ 教員の能力や指導力向上に向け、校内相互研修を含めて、各種研修をさらに充実させる。特に、ICTの知識・技術、歯科衛生士教育の力量向上や保護者対応等に係る理解を深めることが重要である。(M・N)

[評価項目4] 学修成果

(1) 評価得点

評価項目	今年度	昨年度
A 就職率の向上が図られているか。	3.9	3.9
B 資格取得率の向上が図られているか。	3.9	3.9

C 退学率の低減が図られているか。	3. 5	3. 5
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3. 2	3. 0
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3. 2	3. 1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 国家試験の全員合格、資格取得100%を目指し、思いを同じくして学校全体で指導に当たっている。特に、コロナ禍における感染防御が必須となっており、学力や気力とともに健康保持を徹底した。(A・B)
- ② 就職に関する面談回数を増やすとともに希望者には面接練習を実施することにより、各人の意識向上を図った。(A)
- ③ 今年度より、卒後1年の同窓生に対して行っている定期的なケアは、就業の達成感獲得や早期離職防止に効果があった。(D・E)
- ④ 再就職支援事業にかかる研修会をWeb開催したが、大変大きな反響があり有意義であった。(D・E)

(3) 次年度への課題

- ① 歯科衛生士という医療専門職への理解を深化させ、学修の充実、目標達成への意欲をうながす教育を推進する。(B・C)
- ② 卒業生の活躍・業績等を可能な限り把握し、学年の段階に応じ、特別講義等を企画・実施することで、学生の意欲を喚起し、学修の充実に繋げていく。(D・E)
- ③ 国家試験対策のスタート時期をできる限り早期にし、全員合格を達成する学校全体のサポート体制をさらに強化する。また、第1・2学年次における指導法を工夫することで段階的な指導を行っていく。(B)
- ④ 個別面談や保護者面談を繰り返し、さらには学校カウンセリングを適宜実施することも含め、学校と家庭の連携を密にして丁寧な指導を行い、不適応による退学者等をなくす。(C)

- ⑤ 在宅の資格所有者に対する復職支援について、県歯科医師会主導の歯科衛生士確保に係る取り組みに協力し、県歯科衛生士会や本校同窓会と連携し、幅広く情報発信を行う。(D)

[評価項目 5] 学生支援

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3.9	3.8
B 学生相談に関する体制は整備されているか。	4.0	3.8
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.9	3.9
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3.5	3.4
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3.2	3.1
F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3.2	3.3
G 保護者と適切に連携しているか。	3.3	3.0
H 卒業生への支援体制はあるか。	3.7	3.5
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.7	3.6
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3.7	3.6

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 各学年段階に応じた担任教務との個別面談や保護者面談、進路選択・決定期においては教務主任面談・面接練習等を繰り返し、可能な限り支援体制を充実させた。今年度もコロナ禍の中で心身の安定を図ることを重視した。(A・G)
- ② 学校カウンセラーによる教育相談が順調に行われ、上記①同様、概ね目的を達成できたと思われる。(B)
- ③ 平成30年度より開始された本校独自の修学支援事業のうち「特待生制度」について、今年度はその拡充策として「特待生B」に加えて「奨励生」枠を各学年5名設定し、幅広く支援した。(C)
- ④ 昨年度より「高等教育の修学支援新制度」の機関確認校として数多くの学生が対象となったこととともに、年度途中で特別給付を受けた学生も多く、コロナ禍という厳しい事態の中、極めて有益なものとなった。(C・I)
- ⑤ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」講座指定校として、順調に当該事務を遂行した。また、対象者も確実に増えている。(C・I)
- ⑦ コロナ禍中であったが、1年生による夏季休暇中の母校訪問を実施することができて大変ありがたかった。本人の現況報告や高校担当教諭の卒後指導により、大変充実した取り組みとなった。(A・B・J)

(3) 次年度への課題

- ① 本校「特待生制度細則」を改正し、「奨励生」枠を正式に設置することにより、さらに学びへの意欲向上と経済支援の充実を図る。(C)
- ② 「高等教育の修学支援新制度」の運用を円滑に行うとともに、国や県の修学支援事業等対し適切に対処する。(C・I)
- ③ ここ数年、社会人の入学者が複数名となってきたが、今後さらに増員を目指し、厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度の広報を幅広く行う。(C・I)
- ④ 経済支援体制の諸制度(校内外)一覧を作成して広報し、さらに制度の趣旨等の浸透を図り学修意欲向上に繋げていく。(C・I)

[評価項目 6] 教育環境

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.4	3.0
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2.6	2.8
C 防災に対する体制は整備されているか。	3.5	3.4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 春季休業期間に1・2年普通教室の拡張工事を実施し、基本的な感染防御対策として、机間の間隔を充分に取りながら学年全員がそろって授業に臨むという体制を取ることができた。(A)
- ② 上記①と同時期に大規模なトイレ改修を行い、利便性の向上を図った。(A)
- ③ 学校図書室の学習環境の整備が進み、「テーマ研究」や試験対策等で利用しやすくなった。(A)
- ④ 学生用ノートPCをタブレット型に分離可能な最新鋭機種に更新し、情報関連の授業ばかりではなく、多様な用途で使用できるようになった。また、校内Wi-Fiの更新も行い、通信環境の改善に努めた。(A)
- ⑤ 学生対象の緊急連絡システムに保護者にも参入していただき、運用の幅を拡げた。コロナ禍対策等の危機管理や各種連絡の用途に活用することができた。(A・C)

(3) 次年度への課題

- ① 旧型の校内施設設備等は、学校運営の中長期的な展望に基づいて更新・整備を行う必要がある。歯科ユニットの大幅改修、教室の机・椅子の更新等の懸案を順次検討していく。(A)
- ② 各施設設備の細かな不具合等は、報告のあったものから点検を行い、できるだけ迅速に整備していく。(A)

- ③ 校内設備の定期点検、計画的メンテナンスを実施し、安全で清潔な環境の維持をめざす。(A・C)

[評価項目7] 学生の受け入れ募集

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学生募集活動は適正に行われているか。	3.8	3.9
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.8	3.8
C 学納金は妥当なものとなっているか。	3.9	3.9

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 感染防御を基本において夏季のオープンキャンパスはWeb開催としたが、冬季は対面で行うことができ、それぞれその特色を活かす事ができた。(A)
- ② 高等学校主催進路ガイダンスや個別の学校訪問等、例年同様可能な限り対面での広報を行い、歯科衛生士の仕事や本校の特色への理解の浸透を図った。(A・B)
- ③ 学校HP、専用ブログに加えてインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(A・B)
- ④ 本校独自の修学支援事業や昨年度開始の「高等教育の修学支援新制度」、また平成30年度より運用している社会人対象「専門実践教育訓練給付金」等、現在備えている経済支援制度の広報について、高校訪問や進学ガイダンス、オープンキャンパス、学校HP等各方面で行った。(A・B)
- ⑤ 「山形花笠祭り」団体参加、「防災講話」、戴帽式をリニューアルした「登院式」等について各種報道機関の取材があり、広報の実が上がった。(A・B)

(3) 次年度への課題

- ① 入学者選抜について、その日程や方法等の全体的に改善検討を行う。(A・B)
- ② 高校訪問、各会場での進学ガイダンス、中学校への出前授業等対面での広報を可能な限り粘り強く継続し、歯科衛生士の仕事について、さらに理解の浸透を図っていく。(A・B)
- ③ オープンキャンパスの回数や方法について検討し、有効性を高める。(A・B)
- ④ 男子学生や社会人の受け入れを意識した広報活動を推進する。(A・B)
- ⑤ 学校HP・ブログ・インスタグラムの他、SNS上の各種広報について幅広く検討していく。(B)

[評価項目8] 財務

(1) 評価得点

評価項目	今年度	昨年度
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3.3	3.4
B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3.5	3.6
C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3.8	3.8
D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3.8	3.8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 予算の執行や財務管理は適切に行われた。(B・C・D)
- ② 本校が備えている各種経済支援制度の運用はもとより、コロナ禍における国や県、そして本校の支援策の手続きや事務処理等大変円滑に行うことができた。(B)

- ③ 学校HP上に財務状況の概略を公開し、客観性を担保した。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度を有効活用し、また、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として、今後も社会人や低所得家庭からの入学者を広く受け入れていく。(A)
- ② 学校の魅力を広報するとともに本校が備えている各種経済支援制度の周知を徹底し、入学希望者の増大に役立てる。(A)
- ③ 定員充足が最も基本的な課題であるが、一方で、適切に予算を削減することとともに、日常的に経費節減を心がけ、安定的で継続性のある経営をめざすことが必要である。(A・B)
- ④ 本校独自の修学支援制度は5年目を迎えるが、中期的な視点に立ち、学生生活の安定と学びの充実を目指し、さらに改善検討をしていく必要がある。(A・B)
- ⑤ 単年度だけでなく、中長期的な計画を策定し、施設設備の改善整備や物品の更新、不具合箇所の修繕等を順次実施していくことが必要である。(A)

[評価項目9] 法令等の遵守

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.8	3.9
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.9	3.8
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3.8	3.8
D 自己評価結果を公開しているか。	3.8	3.8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、学校図書室運営検討委員会をそれぞれ年2回開催することができた。各委員会とも複数の外部有識者を委員委嘱して協議を重ねており、それらは確実に学校運営の向上に繋がっている。(A・C)
- ② 学校評価事業開始6年目を迎えているが、その総括を通して学校の運営改善に大きく役立てることができた。さらに、自己評価や学校関係者評価の実施は、学校の一体感等を高めることに繋がった。また、それを学校HP上で公開することにより、少しずつ社会的な信頼獲得が図られている。(A・C・D)
- ③ 学校HP上に「情報公開」欄を設け、文部科学省が示すガイドラインに従い学校情報を公開した。(A・C)
- ④ 「個人情報保護方針」を学校HP上に公開している。(B)

(3) 次年度への課題

- ① 公開した情報や学校生活に関連した事柄について、保護者に対してできる限りの周知を図るとともに、一般の方々に幅広く浸透させていく方策を検討する。(D)
- ② 社会情勢の変化に鑑み、就業前の学生という段階に応じた、SNS、スマホ使用時の情報管理について専門的な視点からの指導を行う必要がある。(B)

[評価項目 10] 社会貢献・地域貢献

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.3	3.2
B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3.1	3.3
C 地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等含）の受託等を積極的に実施しているか。	3.3	3.4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 「山形花笠祭り」への代表団体参加は、2日間にわたる全校生参加の大変大きなイベントとなった。学生・教職員が一体となって実施したが、多数の保護者の観覧も得て、本当に得難い充実した体験となったとともに、主催者や地域の方々からの評価も高く、達成感のある行事となった。(A・B)
- ② 学校周辺の地域清掃ボランティアを年2回(7月・12月)実施した。(B)

(3) 次年度への課題

- ① 第3学年「テーマ研究」発表会のWeb公開を推進し、高校生、各歯科衛生士養成校関係者、歯科医師会・歯科衛生士会の会員、さらには一般からも参加者を募り、公開講座として明確に位置づける。(A)
- ② 県内郡市地区歯科医師会との連携により、地域貢献や歯科保健活動の取り組みに参加する。(A・C)
- ③ 「歯科専祭」の実施について、時期や内容、発信方法、公開講座の可否等を再検討する。(A)
- ④ Web(YouTube等)を利用した地域への発信等、コロナ禍における新しい形の地域交流を模索する必要がある。(A・B)